



大石地区

発行: 令和2年3月
発行元: 釜石市復興推進本部

復興まちづくり協議会・地権者連絡会 ニュースレター

撓まず 屈せず がんばろう釜石!!

復興まちづくり協議会・地権者連絡会を開催しました

開催日	令和2年2月29日(土)
時間	14:57~16:00
場所	大石地域交流センター
参加人数	25人



議題	1. これまでの経緯 2. 最新の土地利用計画について 3. 今後の工事スケジュール 4. 屋形遺跡について 5. 意見交換
----	--

当日はこれらの議題について担当より説明いたしました。出席された皆さまからは、最新の土地利用計画についてや今後の工事スケジュールについてなど様々なご意見、ご質問をいただきました。

議題の概要

最新の土地利用計画について

空撮(全景)

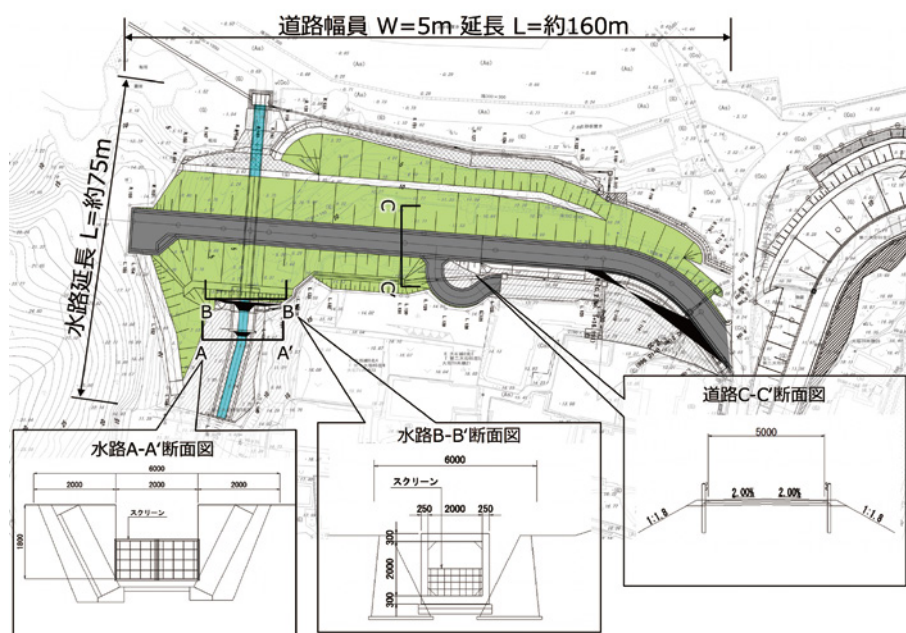


令和元年12月撮影

最新の土地利用計画(東路線工事完了)



最新の土地利用計画(西路線)



屋形遺跡について

屋形遺跡の現状

①釜石市指定文化財になりました。
遺跡の重要性に加えて、現在まで続く「漁業のまち」を証明する、釜石を代表する縄文遺跡として指定されました。
認定日 平成31年3月25日

②国指定史跡を目指して

屋形遺跡が発見されて以降、その重要性から国指定史跡を目指しています。皆さまの御協力のおかげで、令和2年度中に国へ申請を行なう準備が整います。大石地区の皆様には、今後ともご協力頂きますよう、よろしくお願いいたします。



屋形遺跡全景

※屋形遺跡が、国指定の史跡として認められれば、釜石市では橋野高炉跡に続く63年ぶりの快挙となります。

このようなご意見・ご質問をいただきました



14.5m以上の津波などが起きたら避難路から次にどこに避難すればよいのか。

一段高くなっている場所がありますので、一度そちらに避難していただき、14.5m以上の津波などが万が一起きた場合は、そこから市道の方に上がっていただきいたきたいと考えております。

西路線の下に2m幅の暗渠が入って水を流すというのだが、スクリーンはどのくらいの強度があるのか。また、流木より大きな岩が流れてきた場合、その石の流れる速度に対して、スクリーンというのはどのくらいまでもつのか。

強度につきましては、鉄製のスクリーンになりますので、流木などある程度のものが流れてきても大丈夫なような設計になっております。万が一、大きな石が流れてきて壊れた場合でもかなり衝撃が弱まると思いますし、こちらの下流側にももう一つのスクリーンがございますので、その二段構えであれば、そのような石でも大丈夫であると考えております。

ボックスカルバート2m×2mというのは、流域面積とその流量などの計算の下で造るのだと思うが、スクリーンを造る場合にもそういった根拠があるのか。

スクリーンを造るときには、流れてくる断面に対してスクリーンの大きさを計算しております。強度につきましては、ある程度流れてくる水の量もありますので、構造計算をした上で鉄筋の大きさなどを決めております。

今回整備する西路線の下ボックスカルバートと、海側の既設のボックスカルバートの潮位の影響に伴う水による流量などは考慮しているのか。

潮位の影響につきましては流量計算上、加味ができないものでしたので、今の流域の流量に対しての流量計算をしております。

今回の台風第19号で被災している箇所を考えると、流量の計算ではもつのだろうが、実際流れているのは土砂とか木なので、もう一度検討をしてもらいたい。

ボックスカルバートが万が一詰まった場合の対策を検討します。

暗渠が詰まった場合に水がどのあたりまで流れてくるのかハザードマップ等作ってもらいたい。

暗渠が詰まった場合の浸水範囲につきましては、図面に明記します。(別紙図面をご参照願います。)

東路線の避難路のところに駐車場があるのか。

駐車場があります。避難路は階段になりますので、万が一、車などで避難してきた方は、こちらに車を停めていただき、歩いて逃げていただくということで考えております。

駐車場の脇にある川のところのU字溝が見えているし碎石も全部流れているが把握しているのか。

現場を確認したところ、U字溝脇の洗掘、U字溝内への土砂流入を確認しましたので、工事により対処します。

東路線の工事完了となっているが、その道路以外のコンクリの部分なども市が借り上げたのか。

既存の構造物に土を盛ることになるため、部分的に買収しておりますが、一部については、個人の用地が残っているところもあります。

今回、災害復旧工事をする37号線の海岸道路の隣に、大型土のうで仮応急しているところがあるが、あそこについてはどうするか。

今回工事する箇所と併せて、工事を実施したいと考えております。

避難道として工事完了している以外の既存の道路についてだが、もともと傷んでいたものが、避難道の工事完了後にも大型の工事車両などの往来があり、これからも痛みが進むのではないかと思うので、状況を見て整備について検討をしてもらいたい。

既存の道路の補修につきましては、管理している建設課と協議しながら、どのようなところを補修できるか、現地を確認したうえで実施したいと考えております。

復興事業については、可能な限り皆さまの期待に応えられるよう進めて行きたいと考えております。

1日も早い復興事業の完了に向け、今後も全力で取り組んで参りますので、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



復興計画の事業進捗等については、「広報かまいし」や市のホームページでも公開しております。併せてご覧ください
<http://www.city.kamaishi.iwate.jp>

協議会等に関するお問い合わせ

釜石市復興推進本部 TEL:0193-27-8479
FAX:0193-22-2686